

塗装工事によるトラブルが国民生活センターの相談件数でも急増しよう。不当価格のほか、必要以上に薄められた塗料でも一時的には新築のように仕上がる事から、工事費用と比例しない表面だけの工事がトラブルを加速させている。これを防ぐには正確な知識に基づく業者の絞込みと、工事における4つの要点を契約前に確認しておく事で、後から発生するトラブルの回避につながるという。

そこで厚生労働大臣認定塗装技能士が、工事を計画する人に費用が無駄な出費とならないように、自衛策を小冊子に分かりやすくまとめ公開。内容は

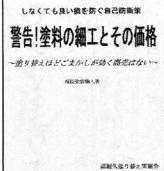
① 確実な工事をさせる為の魔法の一言

- ② 保証年数・高級塗料に安心する致命的な誤解
- ③ 不当価格のカラクリ
- ④ 感謝と激怒を分ける4つのポイント

神奈川新聞にも紹介されたこの小冊子を本紙読者30名に無料プレゼントしてくる。

(同業者不可・非売品)

【応募方法】〒、住所、氏名、電話番号を、24時間録音案内テープに記入し、〒0120-382-3688または045-382-3602、またはハガキで、〒240-0052保土ヶ谷区西谷町611-1-104、045-382-3600、(南)高耐久塗り替え実施会。



出神奈川県塗装協会認定工事指導員 財住宅リフォーム紛争処理支援センター会員(行政窓口で閲覧可)

ひとり旅で自分と向き合う

セミナー参加者募集中

自分を見つめ直す旅をテーマに活動を行う「自分と出会う旅工房」(秋山友志代表)人物風土記で紹介では「ひとり旅のつくり方講座(海外編)」を開講し、16歳以上の10代・20代を中心に海外へのひとり旅行経験者や希望者を現在、募集している。

セミナーでは環境共育事務所カライズ代表の西村仁志さんなど、「ひとり旅」をもっと「おもしろくする」多彩な旅のスペシャリストを囲み、旅の準備・旅先でのトラブル対応などの意見交換を参加者同士で行うほか、楽しいワークショップ

と講義を通して自分流の「オンリー・ワンな旅」を作っていく。

日時は4月24日(土)13時～25日(日)15時までの1泊2日で、場所は旭区の横浜子ども自然公園青少年野外活動センター。参加費用は1泊3食と保険料込みで、一般が18000円、学生が10000円。定員は25名(定員になり次第締切)。

問い合わせ、申し込みは自分と出会う旅工房担当・秋山 友志 090-15198-0285(留守電の場合)は用件を録音・E-mail: hihobo@hotmail.com。

たします。「ニュースの森」等、報道番組で話題の地元で信頼の厚い探偵社。

■アーウィン女性探偵社
●保土ヶ谷区
045(921)7255
0120-5555-245

●横浜本社(横浜駅前)
045(314)5592
<http://www.ahrwin.com>

在宅 サイドビジネス
本業も可能

自由な時間に楽しく働く、資料請求は担当/山村まで。
hy0928@ezweb.ne.jp
0120-214464

証拠 秘密厳守
相談無料

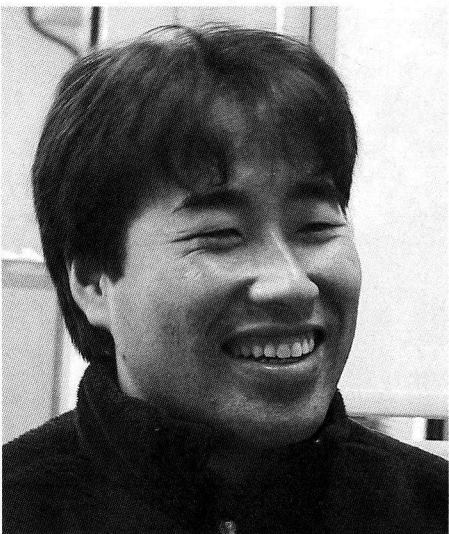
無駄な経費はかけません。国の許可を得る公益法人(社)日本調査協会加盟員
ハマ女性調査室 本社
012008697837

旅の魅力を伝えたい

○:来月24・25日、旭区「房」今年初の1月に立ち上る横浜市子ども自然公園青い旅のつくり方講座」を主催する秋山友志さん。今年初の1月に立ち上る横浜市子ども自然公園青い旅のつくり方講座」を主催する秋山友志さん。今年初の1月に立ち上る横浜市子ども自然公園青い旅のつくり方講座」を主催する秋山友志さん。

人物風土記

題字は 中田宏横浜市長



●来月24・25日、旭区で「ひとり旅のつくり方講座」を主催する秋山友志さん

秋山 友志 さん

新井町在住 25歳

顔で意気込みを語る。○:自身も自然旅行好き。それが豊富だ。中学生の頃に仲間5人で江ノ島まで自転車出掛けたのをきっかけに、伊豆高原や千葉まで足を伸ばすようになる。高校2年の時には初めて、一人で飛騨高山へ。さらに大学進学後は日本1周旅行、アメリカ西部の国立公園巡りとその旅のスケールを広げていった。「同じような旅をしている人と仲良くなったり、地元の人から声をかけてもらえたり。そういつたところが一人旅の魅力ですね。見せてもらったアルバムに酒を酌み交わしたり、食事をしたりしている写真が多く収められている。そのどれもが笑顔。気さくな人柄がうかがえるようだ。

○:個人事務所を立ち上げたばかりで、今はまさに手探り状態。今回の講座も、自分が主催する記念すべき初めての講座だ。そのため、チラシやホームページの作成なども全て自分が担当。全くの0からスタートを切った。それでも講座を開くのは、「旅の魅力を一人ですのネットワーク作り。士」の目標は旅人同士のネットワーク作り。に、生の声を聞く機会を作りたい」と力強く語る。しかし旅はあくまでも手段。目的は人を育てることだ。あとは「自分が旅を食したい」というのが今の切実な願い。「10カ月働いて、残りの2ヶ月を自分の時間に当てるのが理想なんです。が、難しいかな」